

令和5年度 学校自己評価点検

学校自己評価を行うにあたり、以下の方法で、データ収集、分析、課題の抽出を行いました。

I データの収集

1 アンケートの作成 令和元年度7月ー12月

「専修学校における学校評価ガイドライン」

平成25年3月 文部科学省一に準拠した

アンケート内容は別紙1参照

2 アンケートの実施 令和5年度3月

対象	教職員	17名	平成5年度在校生	64名
	回収率	88.2%	回収率	78.5%

II データの分析、課題の抽出

1 大項目ごとに平均得点を算出をした

2 大項目ごとに評価と課題を抽出した

III 自己評価点検委員会で討議をした

学校自己評価点検

平成19年には学校教育法の改正により、自己評価の実施と公表が義務化されました。本校は長野県立病院機構を設置母体とし、平成26年4月に地域医療を担う人材育成を目的に看護基礎教育をスタートさせました。開設当初より、自己点検評価委員会・外部評価委員会・更に学校評議会を設け、評価・改善を重ねながら学校運営にあたってまいりました。令和5年度は新カリキュラムが導入され2年目を迎え、新旧カリキュラムを同時に運営しました。

この度、令和5年度の評価がまとまりましたので、結果の公開をいたしますとともに、今後も分析と検討を重ね、学生の学習環境の改善に努めてまいります。

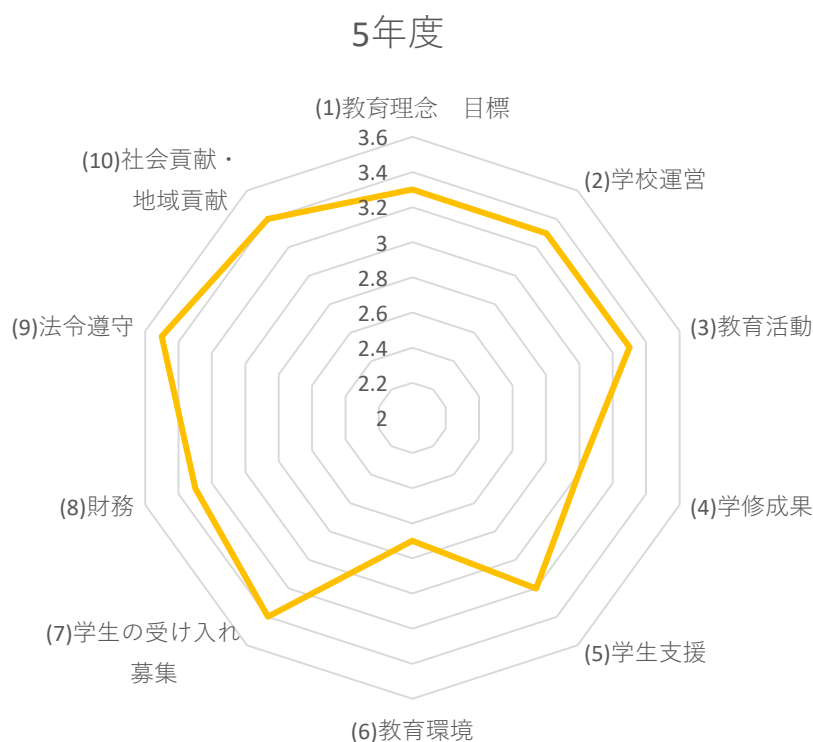
1 大項目ごとの平均得点

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
教育 理念 目標	学校 運営	教育 活動	学修 成果	学生 支援	教育 環境	学生の 受け入 れ募集	財務	法令の 遵守	社会貢 献・地 域貢献
3.3	3.3	3.3	3	3.2	2.7	3.4	3.3	3.5	3.4

平均得点

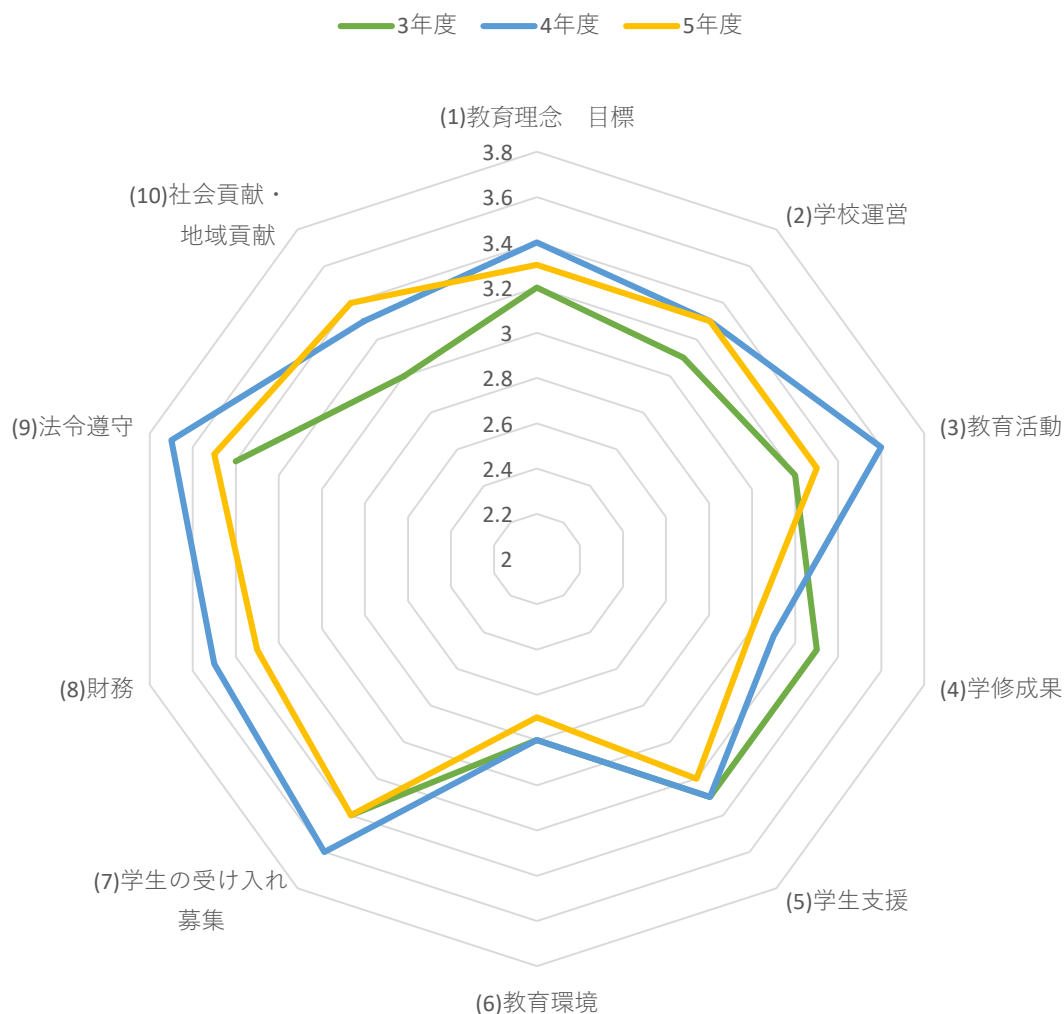
評価は4段階とした 4：とてもそう思う 3：そう思う
2：あまり思わない 1：まったく思わない

大項目のレーダーチャート



3年度・4年度・5年度の比較

職員アンケート



昨年との比較

昨年よりも全体に低評価であった。5年度は新任教職員を5名迎えスタートした。教員はチームでサポート体制を組みながら運営を実施したが、初めての内容も多く、それぞれの職員の負担は大きいものであったことが評価にも影響していると考えられる。

(10) 社会貢献・地域貢献に関しては新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで社会・地域貢献の活動が再開できたことが大きく影響し評価が上がったと考える。

今年度の中退者率は3.1%であり昨年に比べ少なかった。中退者率は全国平均6.01%（R元年からR3年度の平均）と比べても少なく、学生個々へのきめ細やかな対応が効果があったと考える。新型コロナの影響が少なくなり学校運営がしやすくなったが、新型コロナ禍の生活が長期化したことによる影響はまだ続いているため、回復に向けた活動が必要である。

また、(6) 教育環境は、毎年評価が低い状況にあり、5年度は、実習場所の環境に関するアンケート調査を実施した。可能な範囲で調整を行うことが必要である。

学生の評価

アンケート項目

		結果
1	学校は理念・教育目的・教育目標をわかりやすく表現している	3.5
2	教育理念・教育目的・教育目標は学生の学習の指針になっている	3.5
3	理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいる	3.6
4	授業科目の単位履修の方法は学生便覧にわかりやすく明示されている	3.7
5	実習施設との連携など、医療施設との協力体制が整備されている	3.6
6	単位認定のための評価は学校全体として一貫性がある	3.6
7	学生への指導は学校全体として一貫性がある	3.5
8	学習への指導は学生の学習の動機づけと支援になっている	3.5
9	学生の進路・就職に関する支援体制は整備されている	3.6
10	学生が学校生活を円滑に送れるように、施設設備を整備改善している	3.5
11	教育・学習活動に関する情報提供は適切に行われている	3.6
12	学校のホームページはわかりやすく整備されている	3.6
13	学校は、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3.6
14	学校は、保護者と適切に連携をとっている	3.4

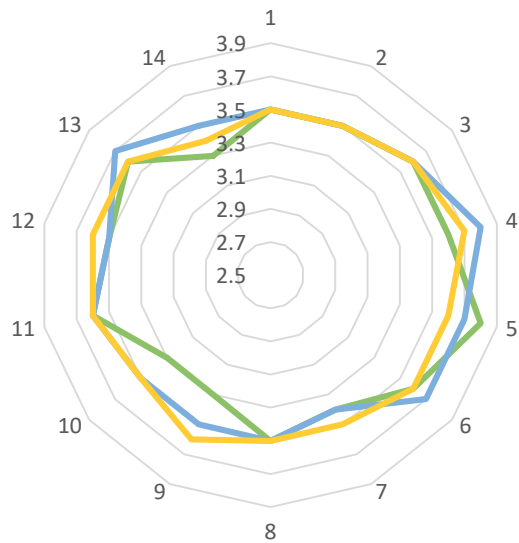
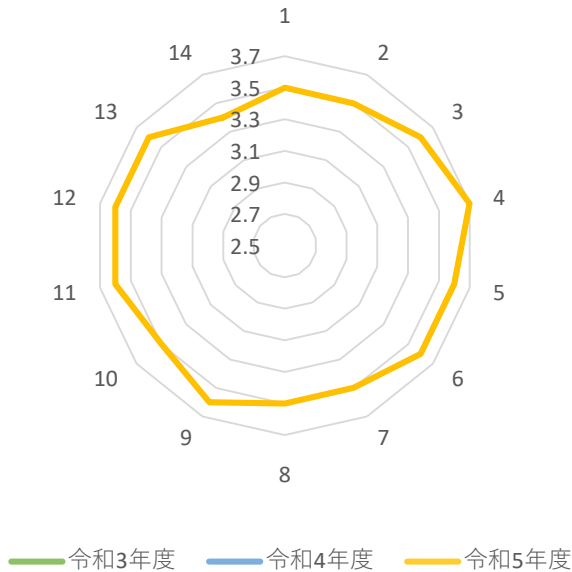
評価は4段階とした 4：とてもそう思う 3：そう思う
2：あまり思わない 1：まったく思わない

学生の声

- ・もう少し休みをください。
- ・無駄な拘束時間が多い。
- ・先生間での情報共有をもっとしっかりして欲しい。
- ・3年間ありがとうございました。この学校で学べて良かったです。

学生の評価レーダーチャート

令和5年度



昨年との比較

昨年と比べ、評価点は項目により上がり下がりにバラツキがある。新カリキュラムが導入され2年目であり、新旧のカリキュラム運営による影響が出ている。夏休みが短くなっている現状もあり、学生の休み希望の声にも繋がっているのではないかと考える。

項目4.5.6が昨年に比べやや評価が下がっている。

実習施設との連携（項目5）は、実習場所によっては実習指導者の業務が兼任のために、指導が十分に受けられない状況があったことが影響していると考えられる。

単位履修のための方法（項目4）、単位認定のための評価（項目6）は、実習場所も多いことに加え、新任教員も増えたことを考慮し教員間の連携を更に密にし、情報共有し確認することが必要であり、学生の教員間の連携を求める声にも現れている。

無駄な拘束時間が多いとの意見については、「なぜそのように拘束しているか」の説明が不十分であったと考えるため、今後学生に理解を得られる説明が求められる。

保護者との連携（項目14）に関しては、適宜実施しているが頻回に関わる必要性が少なかったことが評価が低い一つの要因と考える。

この学校で学べてよかったとの嬉しい評価もいただいている。

2 大項目ごとの評価と課題

I 教育理念・目標 3.3

令和4年度より新カリキュラムが導入され、新カリキュラムと旧カリキュラムを同時進行での運営は2年目となった。新カリキュラムで求められている、コミュニケーション力、臨床判断力、社会人基礎力効果のため、教員が意識して学生・新入生保護者への説明機会が増えたが評価点は下がっている。理念・目標が具体的にどの科目、活動に繋がっているかを分かりやすく提示する必要がある。

- 課題1 令和5年度の評価をもとに、見直した具体策を実施する。
- 2 オープンキャンパス・学校説明会・入学説明会・入学時オリエンテーション、後期の活動時も機会を増やし、本校の理念から新カリキュラムのつながりを分かりやすく説明を行う。

II 学校運営 3.3

学校の理念・目標・育成人物像について、学校パンフレット、学校便覧に明記しカリキュラムまで整合性のある内容となっている。学校運営組織については、図式化され明示されている。カリキュラム、その他事業計画については、2週に一度の教員会議で進捗状況の確認・評価を行い、月1度の教職員連絡会議において職員全体の意思統一を図っている。学校の最高意思決定機関である運営会議は、月に一度開催し適時性のある議決を行っている。業務の効率化、教職員の業務分担の偏在については、会議で調整を図っている。業務が一部の教員に集中しないようチーム等の応援体制の強化を試みたが、一部具体的な行動に結びつかなかった。

- 課題1 業務が一部の教員に集中しないようチーム等の応援体制を強化する
- 2 各教職員のマネージメント力を上げる。

III 教育活動 3.3

1・2年生の新カリキュラムが開始し新旧同時進行の運営であったが、それぞれの教育理念・目的・目標に沿った科目を計画的に実施している。また計画していた実習、キャリア形成講座、課外活動も該当施設の協力を得ながら実施できているが、就職活動の時期が早まっているため、キャリア形成講座の時期に関して検討が必要である。

年3回のカリキュラム評価会議を実施し、教員間の評価の共有を図っている。それらを踏まえ次年度の授業計画に反映し次年度への課題を提示し改善に取り組んでいる。

令和6年2月実施の国家試験は合格率100%であった。しかし、学生の学力低下が懸念されるため、国家試験合格に向け、低学年からの基礎知識の不足を補うことが必要である。

教員の指導力向上のため担当する研修への参加ができた。今後は学会等も計画的に参加し、研鑽に向けた機会を得られるようにしていく。また、学内においての教員の育成方針の検討が必要である。

- 課題1 教材の活用、学生との面談により早期の学習支援の開始する。
- 2 学校の国家試験対策に参加できる環境をつくる。
- 3 教員の自己研鑽の機会を計画的に設ける、業務調整の協力を継続する。

IV 学修成果 3.0

令和5年度卒業生24名のうち、県内就職22名（91.6%）22名中：機構7名（31.8%）うち木曾5名（22.7%）県外2名、進学0名であった。看護師国家試験は合格率100%であり、県内地域の就業率は確保できた。以前に比べ、学生の学力低下が懸念されるため学力向上に向け対策が重要である。

令和4年度卒業生に対し、3月にGoogleフォームを用いたアンケート調査（対象28名）を実施した。回答数10、回収率35.7%。卒後1年間の転職はなく、数年後の転職の希望がある人が10%であった。卒業後の学校に望む支援として、悩み相談の場、同級生と話ができる場としての利用の希望がそれぞれ10%、何かあれば自分で学校に出かけ活用すると、積極的に考えているものも10%であった。学校を利用しやすい環境を整える必要がある。

- 課題1 看護師国家試験合格100%に向け、全教員での支援を行う。低学年からの学習習慣獲得への関わりをする。
- 2 看護師国家試験不合格者があった場合、学校の国家試験対策への参加の促すと共に定期的な連絡・学習状況の確認する。
 - 3 卒業生の学校の利用についての仕組みづくりをし、卒業時に周知する。ホームカミングデーを開催し、オンラインも取り入れ参加しやすさを継続していく。

V 学生支援 3.2

3年生に対し教員による履歴書記入のアドバイスや、学生希望により面接練習を行っている。話すことが苦手な学生が増えてきているため、学生が自信を持って面接に挑めるよう回数を重ねる必要がある。実習時期と重なる場合は、限られた人員での対応となっている。

保護者との連携は、学校ブログ年45回更新し、インスタグラムも27回更新し、学生の様子を伝えることができたため、保護者にも周知させていきたい。更に、ひまわり通信として各学年の様子を伝える通信を送っている。

- 課題1 就職活動では、面接練習、履歴書の書き方等の支援が実習時期と重なるため、学生が早期に準備できるよう、引き続き声かけを行っている。
- 2 保護者との連携では、現在年1回の発行している、ひまわり通信を2回発行していきたい。また、インスタグラムを周知させていきたい。
 - 3 放課後の学習室の充実を図り、学生の学力向上を目指す

VI 教育環境 2.7

ひまわり棟（研修棟）の活用は、学生宿舍会や行事の催事場、試験時の体調不良者控室、遠方からの来校者控え室等に活用した。今後もグループワークや少人数での打ち合わせ等の効果的な活用を考えていく。wi-fi設備の追加やLED照明の設置を実施した。今年度は空調設備などを充実させる必要がある。カビ対策は除湿器や換気の実施でこまめな対応を実施した。経費削減を考慮した対策を考慮して実施していく。

インターンシップについては、その都度情報提供をしている。

防災体制については、年2回避難訓練や定期的な火災報知器などの点検が行われ、体制が整っている。また、実習施設での避難訓練は、日程等困難で参加できない状況であるが、実習開始時には各々の施設での緊急時対応についての確認を行う。

- 課題1 教育環境はネット環境をはじめ、効果的活用を見据えた環境整備が必要である。
- 2 インターンシップについて1年時から計画的に説明する。
 - 3 年2回の避難訓練、今後も継続し学内の防災設備（避難経路なども含め）も周知する。

Ⅶ 学生の受け入れ募集 3.4

コロナ禍前のように高校訪問が実施できた。機構本部の方々にも同行いただき学校のPRを積極的に実施した。しかし、受験者の減少が続いている。生徒数が年々減り、大学が増加する中で受験生確保に困難を要している。本校の魅力を伝えるため、郡内の小中学校のガイダンスの機会を設けられるよう手配をし2校のガイダンスを実施した。

学校案内パンフレットに合格率を載せて伝えてる機会を増やした。しかし、学生が簡単にアクセスできるホームページには国家試験合格率を乗せているが、就職・進学先については載っていないため情報を伝える場が少ない。

- 課題1 高校訪問を引き続き積極的に実施していくとともに、小中学校等ガイダンスを実施する。
- 2 学生が簡単にアクセスできるSNSの活用を充実させる学生募集に活用していく。
- 3 学校パンフレット・ホームページの内容を検討していく。

Ⅷ 財務 3.3

入学金、授業料収入と長野県立病院機構からの運営費負担金により運営されている。独自収入を増やすことは難しいが、学生の確保に努め、収入の確保を図ることが必要である。

開校時に手を入れているものの施設は古く、修繕も課題。また、昨今の原油高で光熱水費の支出も増えている。照明のLED化を徐々に進めている。

- 課題1 学生の確保に努めるとともに、きめ細かい指導で引き続き学生に寄り添い、学生が学習継続できるよう支援する。
- 2 学生に協力をえて使用していない部分を消灯する等さらなる節約に努める。
- 3 令和6年度、全館LED化工事実施と実習室・4階教室の空調整備を予定している。

Ⅸ 法令等の遵守 3.5

全体では前年度より各項目の評価が低下した。特に実習に伴う個人情報保護のための対策、自己評価の実施と問題点の改善についてが低下していたため、対策を講ずる必要がある。また、学生の試験結果や成績管理についての管理を徹底していく必要がある

- 課題1 学生の試験結果や成績管理、出欠席の管理の適時性、正確性を高めるために、教員、学生の協力を得ると共に学生、教員の情報の自己管理に努める。
- 2 自己評価の結果を受け問題点の改善に向け、さらに教職員の相互協力を求めることとする。

X 社会貢献・地域貢献 3.4

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、手仕事市、杭の原地区の文化祭、雪灯りの散歩道など多くの行事に参加できた。そのため昨年度より評価は上がったと考える。

地域の要請を受けて妊婦体験スーツと赤ちゃんモデルの貸し出しを実施した。また、白凜祭の一般公開が実現した。ウイルス感染の対策をしながら学校活動を戻していき、教育の一環となる地域貢献ができればと考える。

ボランティア活動を推奨し参加しやすい環境を整えている。地元出身の学生が多くはない中が、ボランティアへの参加が地域との繋がりにもなるため今後も推奨していきたい。

昨年度は県民手話講座を実施したが、より多くの活動をしていきたい。

- 課題1 ウィルス感染症対策を講じて参加機会の拡大をする。